



『子どもの味方パティシエ』

能古見小学校 六年 廣瀬 正侍

私の将来の夢は「子どもの味方になれるパティシエ」です。

私は昔から誕生日の日にはいつも、鹿島のお気に入りのケーキ屋さんで、大好きなチョコレートケーキを買ってもらっていました。あるときそのケーキ屋さんのお菓子作りのイベントがあり、そこに参加をしました。ケーキの上に好きな飾りをつけて、自分だけのデコレーションケーキを作る体験をしました。この体験がとてもドキドキ、わくわくしたことを今でも覚えています。

また、小学校一年生の頃にコロナで外出できなかつた時期がありました。そんな時に私の心を満たしてくれたのは母と一緒にしたお菓子作りでした。作ったお菓子を妹や父、祖母に食べてもらいみんなが笑顔になってくれたことをよく覚えています。

コロナ禍が終わり、また大好きなケーキ屋さんで誕生日を祝うようになりました。運動会やマラソン大会で頑張った時にもケーキ屋さんでケーキを買うこともありました。いつ行ってもケーキ屋さんにはたくさんの笑顔の子ども達がいきました。おいしいケーキを買うことができ喜んでる子ども達、子どもにつられて大人も笑顔になっていました。このたくさんの笑顔を見た時、私はパティシエになりたいと思いました。私は人と話すことが苦手です。そんな私だから、言葉がなくても人を笑顔にすることができる素晴らしさを強く感じたのだと思います。

私は将来、私のような子どもを、笑顔にするパティシエになりたいです。自分が笑顔になれた故郷の鹿島で、もっとたくさんの笑顔を作りたいです。そのためにこの鹿島で店を開き、佐賀や日本の伝統食材を使ったケーキで、鹿島がさらに盛り上がるようにしたいです。目指すは「子どもの味方パティシエ」です。